

「始める」を応援する 江戸川総合人生大学の情報紙

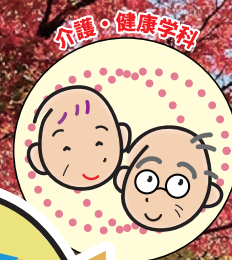
Begin!

ビギン

better life in EDOGAWA
No.
57
2025.11

テーマは…

つながる



まち

であ

つ

な

が

る

まなび

おも

仲間との絆を地域貢献へつなげる

2年次の授業では、『共働』が大きなテーマのひとつになっていました。江戸川区の職員も参加しての『共働まち普請』、2年間の集大成としての地域貢献につながる市民活動についてグループ、一部は個人で『卒業研究の発表』を行いました。

それぞれの発表内容は『年配者や障害者も楽しく体を動かす場を増やすための新しいスポーツ、カーレット（卓上版カーリング）の普及』『ふるさと納税の現状を伝え、江戸川区のふるさと納税を考える』『リサイクルセンター、橋、旧跡、自然、公園などあっちこっちを探訪し、江戸川区の魅力を再認識、それを広く伝えていく』また個人発表では江戸川区と世界のつながりに目を向けた個性的な発表もありました。

卒業後はまちづくり学科での2年間の学びを土台に、目標を持って江戸川区の地域活性化に貢献できる活動をして行きたいと考えています。

江戸川まちづくり
学科 19 期

自分の好きを見つけた地域課題発表会

6月の地域課題発表会の中から3名の発表を紹介します。

①同じバス停に複数の路線が同時刻に重なる問題に「JR 平井駅発バスの利便性向上」と題して改善提言をされた佐瀬正夫さん。「テーマ設定に不安があったが、共感の反応をもらい嬉しかった」との感想がありました。

②住み始めた昭和50年から再生されていく近隣の自然環境を「新左近川親水公園の自然の再生」と題して発表した村田昌子さんは「新しい視点での公園観察に力点を置いて、練習を重ねて初の発表に臨みました」とポイントを話してくれました。

③いずれは介護されるという覚悟で、知識・手続き、施設利用等を丹念に現地取材し「江戸川区、転ばぬ先の杖情報」にまとめた井原くみ子さんは「夫と歩いて調べたことは夫婦の well-being になり、区を身近に再発見できた」との感想を寄せました。

他の発表も含めて2年目への飛躍を予感させてくれました。

江戸川まちづくり学科 20 期



多文化共生の実現に向けて

光陰矢の如し、あっという間の2年間でした。1年次では座学を中心に日本社会における在留外国人の現状と課題について学び、多文化共生の実現に向けて多くの方が努力されている姿に感銘を受けました。フィールドデーでは東京ジャーミー・トルコ文化センター見学を始め、在留外国人の方々の文化と習慣に接する貴重な体験が出来ました。

2年次では、社会活動体験を通じて江戸川区のボランティア団体の存在を知り、そこで活躍する多くの人生大学の先輩と交流する機会に恵まれました。座学で学んだことを社会活動体験で実践し、今後のボランティア活動につなげていく!! 感動を共有したクラスの仲間とのつながりは一生の財産。

心をひとつに多文化共生の実現に向けて歩みを進めたいと思います。

国際コミュニティ学科 19 期



食でつながる～大人食堂～われら地球市民

20期の有志が行っている大人食堂では日本に暮らす外国の方たちに、食を通じて気軽に交流できる場を提供しています。例えば、伝統的な日本の行事食である、正月のおせち料理や雑煮、節分の豆、雛祭りのちらし寿司、端午の節句の柏餅やちまき、長寿を願って大晦日に食べる年越し蕎麦などを楽しみつつ、それぞれにまつわる習慣や文化、食材に込められた意味などもお話しします。

また、災害時の避難場所、避難経路などをやさしい日本語または英語で情報共有できるように工夫しています。

食事を共にすることで、心の安らぎや、新たな人間関係を築き、絆を深めることを目標にした大人食堂です。

国際コミュニティ学科 20 期



学びでつながる

観念の違う講師の授業を毎回受け、自分の子育て、孫が育つ今を考える2年間でした。

『幼児期運動発達と運動遊び指導』幼稚園の運動指導頻度による運動能力の比較では、指導のない園児の方が能力の高いというデータ等から「させられる」ではなく「したい意欲」が大切で自由に体を動かし遊ぶ事の大切さを学び、自分の子育ては詰め込み主義で「しなさい」「しないで」などと一方通行だったと反省しました。

現在の子どもを取り巻く課題「虐待、不登校、いじめ、引きこもり、貧困等」の授業では子供達はどんな気持ちで毎日を送っているのだろうかと心が痛み、子どもを笑顔にしたい、自分にできる事はないかと考え、直接結果が見られる活動に参加しています。

多方面からの講師の授業で得た知識は、情報過多の現在でも翻弄される事はありません。

この「子育てささえあい学科」のカリキュラムを1人でも多くの子育て世代にも受けてもらいたいと思います。

同じ思いの先輩方と一緒に、目標に向かって活動を始めました。

子育てささえあい学科 19 期



1年次を振り返り2年次に向けて

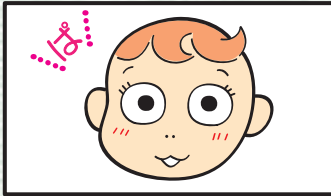
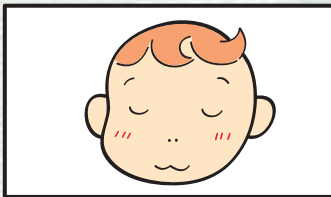
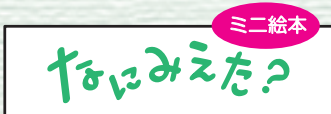
私たち20期生は幸先のよいスタートが出来たと思っております。様々な職種の方々の博学多才な授業には目を見張りました。これらを拝聴して感じたのは、子どもを取り巻く環境が、昔と比べて悪化傾向にあるということです。

子育て政策に対して行政と民間で互いに連携して中長期的に取り組む必要があると感じました。現状においては打開策が見当たらず、まさに五里霧中のように感じます。

そんな中で、わが子育て20期生は何をなすべきかと考えました。

世の中が子育てしやすい環境になるよう、まずは自分たちにできることを探すため、1年次で学んだことを思い出し、2年次のボランティア活動につなげるよう取り組んでいきたいと考えています。

子育てささえあい学科 20 期



誰かの助けが必要な人に寄り添うのが介護と学んだ2年

介護は非常に幅が広いです。高齢者の介護はもちろん、障害をもった人や病気の人、子どもや赤ちゃんなど、誰かの助けが必要な人を助けることが介護なのだ、私たちは学びました。

健康やかに過ごすためには日頃の健康管理や、いざという時の備えの必要性も学び、気づきの多い1年でした。

2年目は学んだことの応用編です。ボランティアの実践もあって「これからどうする？」が卒業間近になったクラスメイトの間で交わされる会話になりました。この歳になってクラスメイトができるなんて！これも大きな収穫です。

2年間の集大成が大学祭。準備をしながら、ますます別れがなくなっているクラスメイトです。

介護・健康学科 19 期



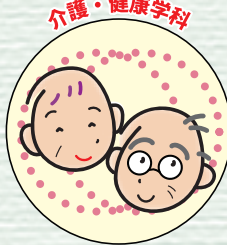
大学祭は2年次にどうつながるか考える機会となりました

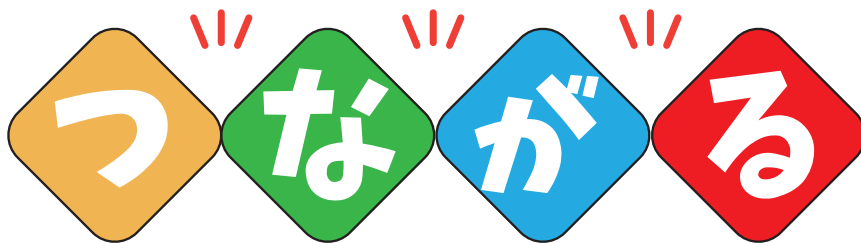
大学祭では、ステージ班は、お口まわりの筋肉を使って「食べる力」を高める素晴らしい活動であるパタカラ体操&パタカラ音頭を楽しく披露しました。また、体験班は、認知症予防に役立つ脳トレーニング、癒しのタクティールケア（触れることによる心のケア）を行い、学科長も体験しました。ボッチャはすべての方が楽しめるスポーツで、子ども、シニア、車椅子を使用している方が体験し、好評でした。

展示班は、軽度認知症の体験報告や視覚障害の方の白杖の紹介を行いました。（株）ウメザワの協力を得て eito（エイト）のアプリ活用で健康促進や認知症の方の「みまもり」ができることを紹介しました。様々な内容に取り組むことで、2学年に向けて自分たちの学びがどう社会につながるかを感じる機会となりました。



介護・健康学科 20 期



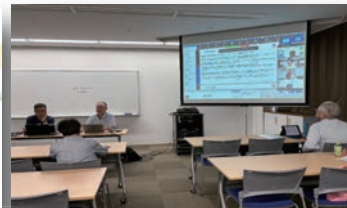


江戸川区の NPO法人

パソコンサポートの会

「パソコンサポートの会」は、第1期生が在学中に授業のレポートや発表資料作成にパソコンを役立ててもらいたいという思いから2006年1月に発足しました。在校生の全学科で実施していましたが、需要が高まり、同窓生、一般の方へと広がっていきましました。会員同士で勉強会を繰り返し、2022年6月にはNPO法人格を取得し、デジタル庁のデジタル推進委員に任命されました。

月に1回のペースで講習会と個別相談会やスマホ教室を開催。講習会のカリキュラムは毎年新しくしており、iPadのサポート、Microsoft office、生成AI、デザインツールCanvaで名刺やチラシ・ホームページ作り、スマホ教室など実用的な内容で、毎回大好評です。私たちはデジタルデバインド（情報格差）の解消に取り組む法人です。 理事長 安山忠秀



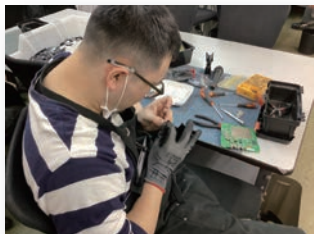
自立支援センターむく

「PC工房」(就労継続支援B型事業所)



「PC工房」では、障害のある人たちが、不要になったパソコンを分解・整備・修理、資源リサイクルを通じて再び世の中に送り出しています。その工程のすべてが「再生」の連鎖であり、同時に「自分らしく働くこと」を支える力にもなっています。

前身の生活介護施設の利用者がパソコンに興味を持ち「これならできるかもしれない」と芽生えた気づきが、現在の活動へとつながりました。2025年春には、戦争で学校を失ったウクライナの子どもたちに、整備したパソコンを届けるプロジェクトに参加。工房全体のやる気は大きく高まりました。



施設長の鈴木誠さんは「彼らの中には私たちには計り知れない能力が眠っている。その光を引き出すのが私たちの仕事です」と語ります。人の力を信じ、人を支えるPC工房。再生するチカラを働くチカラに変えていく工房です。

〒132-0034 江戸川区小松川1-5-2 トニ・ワンビル305号
(電話 03-5875-5592)

施設利用、PC無料引き取り方法等 詳しくはHPをご覧ください。



話そう、食べよう、笑い合おう「んごろんごろ」



イオン葛西店向かいのカフェが活動拠点の「んごろんごろ」。「こどもカレースタンド」「シニア対象んごろ食堂」等の活動を続けています。代表の岩本衣代さんは「何かのお役に立ちたいという気持ちで7年前に子ども食堂を始めて、子どもたちの積極的な思いをカタチにすることと、地域のためには世代間交流の必要性を感じました」と話します。そこで、活動の幅を広げ、かつ安定的な運営を継続するために2023年にNPO法人へ。

茶の湯体験会の実施、こども食堂マルシェ共催、そして子どもたちの学習支援の準備も進めて、合言葉「話そう、食べよう、笑い合おう」のチカラは、人から地域へ響き、広がっています。

「んごろんごろ」 自然・文化遺産の複合遺産のタンザニア自然保護区ンゴロンゴロ。人と野生動物の共生は「お互いを認め合い、誰も傷つけず排除しない、誰もが希望を持てる社会」を目指す私たちの考えと一致し、命名。



【シニア対象んごろ食堂】夏野菜カレー・デザート(豆花+コーヒー)

(活動拠点・連絡場所)「SAVATOLA COFFEE」
〒134-0081 江戸川区北葛西4-1-49(電話 03-6875-2800)
活動内容、イベント等詳しくはHPをご覧ください。



Let's Begin together!! いっしょにやろう!!

江戸川アリスの会 メンバー募集中

日本語学校に学ぶ外国人学生を支援するボランティアグループ「江戸川アリスの会」では、新しい仲間を募集しています!

当グループは、国際コミュニティ学科の授業から生まれた、卒業生・在校生、一般の方を含む約15名の団体です。

日本語交流会、日本文化紹介(茶道体験、南京玉すだれ、落語など)など、地域交流の活動を「出来るときに、出来ることを、楽しく、誠意をもって」をモットーに実施しています。

外国人学生との交流を通して、国際交流に貢献したい方、日本の文化や習慣を伝えることに興味がある方、私たちと一緒に楽しく活動しませんか?



興味のある方は、お気軽にお問い合わせください!

連絡先: 代表 長坂龍郎 03-3671-3293



江戸川総合人生大学リアン17 親子で楽しむイベントを私たちとLet's!

私達江戸川総合人生大学リアン17は、しのぎ文化プラザを拠点として親子と一緒に楽しめるイベントを開催しています。



活動して4年目の今年度は4月に子どもの日イベント、7月は「しのぎ文化祭り」を行いました。

◀12月6日(土)にXmasイベントを予定しています。

「子どもひろばがあったら子育て現役世代でも学びの場が増えるのに…」

そんな思いのある方、親子の笑顔を見たいと思う方。

一緒に楽しめるイベントを考えていたらと思います。



連絡先

mail necobaranino.113@gmail.com

携帯 090-7713-4326 折茂(おりも)友子

同窓会の窓『つながる』

今年の大学祭では、在校生と同窓生が一丸となって準備から片付けまで協力しあったこと、心から感謝しています。まさに「つながる力」を実感しました。開学20周年を記念して誕生した校歌を世代を超えて共に歌い上げた瞬間は、まさに絆の象徴でした。学長のおっしゃる「在校生と同窓会は車の両輪」という言葉が胸に響きます。江戸川総合人生大学は年齢や経験を超えて、お互いを尊重しながら実学を深める場所です。思わぬ出会いが人生を豊かに彩る「縁」となるのも、本学ならではの魅力です。同窓会は今後も、地域社会への貢献と共に、この大学で培われた学びが未来へ「つながる」よう尽力してまいります。

江戸川総合人生大学 同窓会会長 松浦松子

同窓会への
ご入会は
こちらから



☆編集後記☆

人生大学は2年間のカリキュラムで9月8日に19期生の卒業式が行われました。10月5日は入学式で21期生が入学しました。

親しみやすい紙面作りを心がけ、人生大学をもっと皆様に知っていただけるよう編集してきました。次号からは20期と21期の編集委員が中心になって作っていきます。皆様とつながる「Begin!」にご期待ください。

白井 たけ子

☆編集委員☆

◎=編集長 ○=副編集長

◎川寄一男・難波紀代子(まち19期) ○岡田由紀子・鮫嶋充(介19期) ○白井たけ子・的場美代子(子19期) 戸邊國男・若林雄司(国19期) 栗原秀介・中嶋美代子(まち20期) 高橋一三・村野裕子(介20期) 池田則子・岡田和教(国20期) 岩崎通江・大林暁子・渡邊順一(子20期)

(まち)=江戸川まちづくり学科 (国)=国際コミュニティ学科
(子)=子育てささえあい学科 (介)=介護・健康学科

[発行]
江戸川総合人生大学
情報紙編集委員会

〒133-0061 東京都江戸川区篠崎町7-20-19 しのだぎ文化プラザ

TEL: 03-3676-9075 / FAX: 03-3676-6545

<https://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

※編集記事に関するお問い合わせは、大学事務局まで ※ホームページでバックナンバーがご覧いただけます。

